

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

提出日 令和8年6月28日

|          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 派遣大会・事業名 | 令和8年度 第80回関東高等学校女子バスケットボール大会     |
| 派遣期間     | 2026年 6月12日(金) ～ 6月14日(日) * 前泊含む |
| 報告者      | 赤羽沙耶 ・ 有坂明子 ・ 慶野芽以 ・ 田中由紀子       |
| 派遣先      | 神奈川県 横浜市横浜武道館 ・ 川崎市カルッツかわさき      |

## 派遣スケジュール

|       |         |
|-------|---------|
| 6月12日 | 前泊      |
| 6月13日 | 1回戦 2回戦 |
| 6月14日 | 準決勝 決勝  |

## 大会参加審判員(本部・指名審判員のみ記載)

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 本部審判員 | 平原勇次 氏 ・ 梶崇司 氏 ・ 一色渉 氏                |
| 指名審判員 | 石鍋光智代 氏(東京) ・ 工藤雅子 氏(茨城) ・ 富樫彰子 氏(東京) |

## 審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

### 指名審判員レクチャー

#### 【工藤雅子 氏】

##### 「S級審判員になるためにチャレンジしたこと」

- ・**己を知る**: 自分に足りないことや課題を知る 多くのゲームを担当し失敗を経験として積み重ねる
- ・**頼れる・図々しさ**: 自分一人では解決できないこともある  
※映像を一緒に見てもらう PGCを撮らせてもらう など
- ・強い思い: 自分が本当に立ちたいステージを描く そのために実際に**足を運ぶなど行動することが大切**
- ・**チャンスを逃さない**: 崖っぷち精神 「次はない」という思い、覚悟
- ・多くの方々に支えられ、環境が整えられていることに感謝する  
**自分がその環境を作る側になることが恩返しになる**

#### 【石鍋光智代 氏】

- ・**「自分らしさ」**を大切に  
→ 真似るだけではいけない
- ・**自分が納得できるまで準備をする → コートで表現する → 振り返る**  
このサイクルをひたすら繰り返していく
- ・S級になってからは「準備にかかる時間」が大きく変化  
ルールの理解、マニュアルの徹底、チームやプレイヤーの分析 **★「失敗後にどうするか」が大切**
- ・**「チームの声を聞く」**

#### 【富樫彰子 氏】

- ・**目標を明確化**する(長期)(短期)  
長期目標達成までの過程  
→ 具体的なAction PDCAサイクルの徹底  
→ 理想と現実 CHECK(自己分析)
- ・**自己分析 = 「自身の現状を知ること」** なぜできた? なぜできなかった? を考える  
**自分に素直なこと**: 背伸びせず、今の自分を受け入れる  
**自身に矛先**: 内的要因は考えられる コントロールできる

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

提出日 令和8年6月28日

審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

女性審判員研修会(大会2日目・Bブロック準決勝対象)

## 【研修会の実施形式】

- ① プレゲームカンファレンスへの同席(傍聴)
- ② ゲーム観戦
- ③ ポストゲームカンファレンスへの同席
- ④ 質疑応答(研修参加者からの質問や疑問、感想に対し、ゲーム担当レフェリーが回答)

## 【プレゲームカンファレンス(PGC)】

ゲーム開始前に、クルー間でゲームマネジメントに関する認識の統一および情報共有を実施した。

### ＜主な共有内容＞

- ・チーム情報の共有(プレイヤーの特徴、ヘッドコーチやベンチの傾向、チーム戦術、メカニクス等)
- ・クルーとして取り組むテーマの確認
  - 今回のテーマ「さらなる高みへ！！」
  - プレゼンテーションの効果的な活用方法、会場および機材の確認
  - チームのゲームに対する姿勢や大会の特性を踏まえ、目指すべきゲームマネジメントの方向性について共有

## 【ポストゲームカンファレンス・質疑応答】

※プレゲームカンファレンスで共有した内容を踏まえ、各クルーの視点から、ゲーム運営における成果と課題について振り返りを行った。

- Q. プレイヤーが転倒した際や顎を上げるなどのリアクションが多く見受けられたが、どのように対応したのか。  
→ 積極的にコミュニケーションを図り、必要に応じて声掛けを行うことで、不要なリアクションの抑制に努めた。
- Q. 試合中および試合間にクルー間で共有していた内容を知りたい。  
→ プレーの流れ、気になるプレイヤーの状況、ベンチとのコミュニケーション、今後のゲームマネジメントにおける留意点等について情報共有を行っていた。  
※このような情報共有により、プライマリーエリアを尊重しながらも、必要な場面では適切なヘルプを行い、円滑なクルーワークにつなげることができた。

また、質疑応答では、以下の内容についても共有がなされた。

- ・ケースを振り返る際は、判定の正誤のみを論点とするのではなく、ゲームをどのようにマネジメントしていくかという視点を持つことが重要である。
- ・同一の審判員が同じプレイヤーに対して判定を連続して行うことが難しい場面もある。  
そのような状況において、別の審判員が適切に判定することも、クルーワークにおける重要な要素である。
- ・クルーを信頼し、自身のプライマリーエリア付近のプレーを他の審判員が判定した場合においても、クルー全体として最善の判定につながったものとして前向きに受け止める姿勢が重要である。
- ・試合終盤においては、最後まで高い集中力を維持し、ゲームコントロールを徹底することが重要である。

## 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和8年6月28日

担当試合

|                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 試合日                                                                                                                                                                                                                              | 6月13日(土)                            |
| 回戦 カード 点数                                                                                                                                                                                                                        | Bブロック1回戦 11:00 秦野総合(神奈川)70ー72昌平(埼玉) |
| 会場                                                                                                                                                                                                                               | カルッツ川崎                              |
| 審判員名                                                                                                                                                                                                                             | CC三沢 奈央(山梨) U1小林 萌夏(群馬) U2田中 由紀子    |
| 審判員主任名                                                                                                                                                                                                                           | 茂泉 圭治(神奈川)                          |
| 試合振り返り                                                                                                                                                                                                                           |                                     |
| <p>一つのプレーにフォーカスしてしまうと、試合の流れを止める不要なコールに繋がりがねない。ゲーム全体を把握し、試合の流れやチームが求めている判定を的確に感じる必要がある。<br/>また、瞬間的な判定を避け、プレーの始まりから終わりまで丁寧に見届けることを徹底し、プレーを見極める時間を長くすることで、より適切な判定に繋げることが求められる。<br/>ポイント・オブ・コンタクトを再確認し、その根拠を明確にし、判定に説得力を高めていきたい。</p> |                                     |

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回の大会では、2日目のBブロック第一試合を対象とした研修会が行われました。  
プレゲームカンファレンスから見学させていただき、ポストゲームカンファレンスでは研修参加者の質問や疑問、感想に対して、ゲーム担当レフェリーが直接答えてくださるという形式でした。  
プレゲームカンファレンスから様々なケースを想定し、クルーで共有することの重要性を学びました。また、上級レフェリーの皆様が試合中に考えていることや、クルー間で共有していること、選手やチームとどのような意識でコミュニケーションを取っているかなど、多くの貴重なお話を伺うことができ、大変勉強になりました。同時に、自身の判定やバスケットへの理解度、状況を察知する力や気配りの細やかさにおいて、まだまだ力不足であることを痛感いたしました。  
今回の研修を通し、今一度ルールの見直しやプレーコーリングの徹底を行うとともに、県内での講習会でも積極的に質問し、自分にはない観点や気づきを得て、ゲームを円滑に進行・完結させる力を向上させたいと考えております。  
また、多くの他県の女性レフェリーと交流させていただき、非常に刺激の強い2日間となりました。  
今回、派遣に際しましてご配慮いただきました県内のすべての方々に、深く感謝申し上げます。今回の経験を自分を変えるきっかけと力にし、皆様に還元できるよう、さらなるレベルアップを目指して努力と訓練を重ねてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和8年6月28日

担当試合

|           |                                         |
|-----------|-----------------------------------------|
| 試合日       | 6月13日(土)                                |
| 回戦 カード 点数 | Aブロック1回戦 12:00 土浦日本大学(茨城)73ー48白鷗女子(神奈川) |
| 会場        | 横浜武道館                                   |
| 審判員名      | CC三野 雅(東京) U1慶野 芽以 U2畔上 愛怜(東京)          |
| 審判員主任名    | 加納 康平(神奈川)                              |
| 試合振り返り    |                                         |

白鷗女子はインサイドで留学生を有するチームだった。PGCでも、その留学生に関わるプレーの整理に重点を置きながら試合を進行していくことを確認した。

上記のことを踏まえ試合に臨んだが、留学生に対するイリーガルな体の触れ合いに対して、より積極的に笛に表していく必要があった。特にリバウンドの現象について、シリンダーを超えた体の触れ合いの整理をしきれなかったことがひとつの大きな課題となった。接触があっても留学生が「耐えられている」「まだプレーできる」とノーコールとして判断してしまったものを改めて振り返り、正しい守り方、正しいプレーを示していけるようにしたい。

我々審判が、「笛でどのようなメッセージをプレイヤーやチームに示したいのか」を見失わずに、それを一貫して40分間表現していく必要がある。

担当試合

|           |                                         |
|-----------|-----------------------------------------|
| 試合日       | 6月13日(土)                                |
| 回戦 カード 点数 | Aブロック2回戦 15:00 千葉経済大学附属(千葉)73ー71埼玉栄(埼玉) |
| 会場        | 横浜武道館                                   |
| 審判員名      | CC富樫 彰子(指名) U1慶野 芽以 U2小山 愛菜(茨城)         |
| 審判員主任名    | 青木 太一(神奈川)                              |
| 試合振り返り    |                                         |

ゲーム前半は埼玉栄が大きくリードした展開であったが、後半において千葉経済が点数を追い上げ、最終クォーターでは最後まで拮抗した試合展開となった。

まずは自分のプライマリ内に責任をもって判定を積み重ねることができた。一方で、ゲームフローを踏まえ、生じた現象に対してノーコールにできるケースがあった。

→千葉経済が埼玉栄を追い上げていく試合展開において、千葉経済に対する判定(トラベリング、ファウル等)が続いた時間帯があった。試合を正しく進めるにあたり、オビアスなバイオレーションやイリーガルコンタクトをコールに繋げることは必要不可欠である。一方で、片方のチームに連続して判定が下されている状況の際は、その現状をしっかりと理解しつつ、その上でもなおコールが必要であるかを適切に判断する必要があった。(イリーガルなプレーだからとただ淡々にコールするだけでなく、連続して吹かれているベンチの思いも理解した上で判定に繋げる。コールしなくても、審判サイドの「把握」で済ませられる現象もあった。)

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回は1泊審判として、大会に参加させていただきました。関東大会Aブロックというレベルの高い試合で、1日に2試合の割当てをいただき、大変貴重な経験をさせていただいたことに感謝しております。その中で、正しい判定を積み重ねることの大切さを改めて感じると同時に、ゲームの流れやチームの考え、思いをいかにくみ取りながら試合を展開していけるかどうか、その点が私自身の大きな課題であることを再確認しました。

一方で今大会では、大会2日目に女性審判員研修会も含められました。1試合目のゲームを対象に、試合後にクルー・IR・研修参加者でのディスカッションが設けられ、一つの現象を掘り下げて考えたり、どのような思いや意図で判定をおこなったのかを確認したり、多くの参加者で意見交換がなされました。

上記で述べた私の課題である「ゲームフローの把握やチームの思いをくみ取る力」を高めるには、今回の研修会のようにより多くの人と関わり、多様な考え方に触れることが大切だと感じました。多くの方々の考えを知ることで、自分自身の引き出しが増え、新たな気づきを得ることが出来ます。今後多くの審判員やコーチの方々とコミュニケーションを大切に、学び続ける姿勢を大切にしていきたいです。

今回の派遣に際しまして、ご配慮いただきました梶審判長をはじめ県内の審判員の皆様、誠にありがとうございます。また、神奈川県バスケットボール協会の皆様には大会運営にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

# 県外派遣報告書



一般社団法人  
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和8年6月28日

担当試合

|           |                                        |
|-----------|----------------------------------------|
| 試合日       | 6月13日(土)                               |
| 回戦 カード 点数 | Bブロック1回戦 14:00 東海大相模(神奈川)42ー90千葉英和(千葉) |
| 会場        | カルッツかわさき                               |
| 審判員名      | CC有坂 明子 U1大津 麻菜美(群馬) U2高野 敦(神奈川)       |
| 審判員主任名    | 栗原 萌音(神奈川)                             |
| 試合振り返り    |                                        |

PGCでは、両チームのキーとなるプレーヤーやマッチアップ、メカニクスの確認を行い、ゲームに臨んだ。プレーを見極め判定をすること、試合の流れを感じながら必要な笛を入れていくことを意識した。序盤から両チームともドライブを中心としたオフェンスが続き、ボールサイドだけでなく、オフボールでのディフェンスの手の使い方やイーガルスクリーンを見極める必要がある展開となった。後半は、千葉英和のセンターラインからの激しいディフェンスにより、東海大相模はボール運びで苦しみ、ターンオーバーからトランジションにつながるスピード感のあるゲームとなった。試合の流れを見ながらクルーの判定基準を合わせるよう意識した。ブライマリは尊重した。しかし、センターサイドからのドライブに対してディフェンス、オフェンスが倒れるコンタクトに対し、トレイルからでもケイデンスで判定すべきだった。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>関東大会という高いレベルの大会でCCとして参加できたことは、大変貴重な経験となった。選手たちの高い技術やスピード、コンタクトの強さに対して、より早い状況把握と的確なポジション取りが求められた。クルーの良さを最大限に引き出せるレフェリー、そして自分の課題である信頼されるレフェリーになるためには、正確な判定力やメカニクスだけではなく、選手やチーム、関係者から、安心して任せられる存在であることが大切だと改めて感じた。</p> <p>A級として活動できる時間は限られているが、まだまだ自身の課題と向き合い向上心を忘れず、県内の若いレフェリーとともに、成長していきたいと感じました。</p> <p>他県審判員やS級女性レフェリーとの交流を通じて、多くの刺激や学びを得ることができました。</p> <p>今大会の開催について、準備から運営までご尽力いただいた神奈川県バスケットボール協会の皆様、神奈川県審判員の皆様、また、今大会への派遣に際してご配慮いただいた梶審判長をはじめとする県内審判員の皆様に、心より感謝申し上げます、派遣報告とさせていただきます。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|